

# InstallShield 2019 Express Edition

## リリース ノート

オリジナル リリース 2019 年 4 月、R3 を含むアップデート リリース (2019 年 12 月)、R2 を含むアップデート リリース (2019 年 8 月)

はじめに .....	2
R3 Express Edition で解決された問題 .....	2
R2 Express Edition で解決された問題 .....	2
新しい機能 .....	2
新しいプロジェクトウィザード .....	3
強化機能 .....	3
InstallShield 2019 R2 Express Edition .....	3
連続する署名の遅延 .....	4
SQL 2012 Native Client 前提条件のアップデート .....	4
InstallShield 2019 Express Edition .....	4
選択された証明書の詳細を表示する .....	4
定義済みインストール条件の追加 .....	5
デフォルト サーバーを SHA-2 サーバーに更新 .....	5
オペレーティング システム要件として Windows Server 2019 を追加 .....	5
追加された前提条件 .....	5
Microsoft .Net Core 2.1 ランタイム 前提条件 .....	5
重要な情報 .....	6
InstallShield の評価 .....	6
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する .....	6
InstallShield の複数エディションをインストールする .....	7
InstallShield の複数バージョンをインストールする .....	7
[リリース] ビューから [.NET/J#] タブの削除 .....	7
プロジェクトのアップグレードに関するアラート .....	7
InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報 .....	8
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更 .....	8
文字列のローカライズに関する考慮 .....	8
バグ修正 .....	9
InstallShield 2019 R3 Express Edition .....	9
InstallShield 2019 R2 Express Edition .....	9
InstallShield 2019 Express Edition .....	10

システム要件.....	10
InstallShield を実行するシステムの要件.....	10
ターゲット システムの要件.....	12
既知の問題 .....	12
法的情報.....	13

## はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer ベースのインストールをオーサリングするための業界標準ツールです。

InstallShield 2019 Express Edition では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能、強化機能とバグ修正内容も提供されています。

## R3 Express Edition で解決された問題

InstallShield 2019 R3 Express Edition で解決された問題については、「[InstallShield 2019 R3 Express Edition](#)」を参照してください。

## R2 Express Edition で解決された問題

InstallShield 2019 R2 Express Edition で解決された問題については、「[InstallShield 2019 R2 Express Edition](#)」を参照してください。

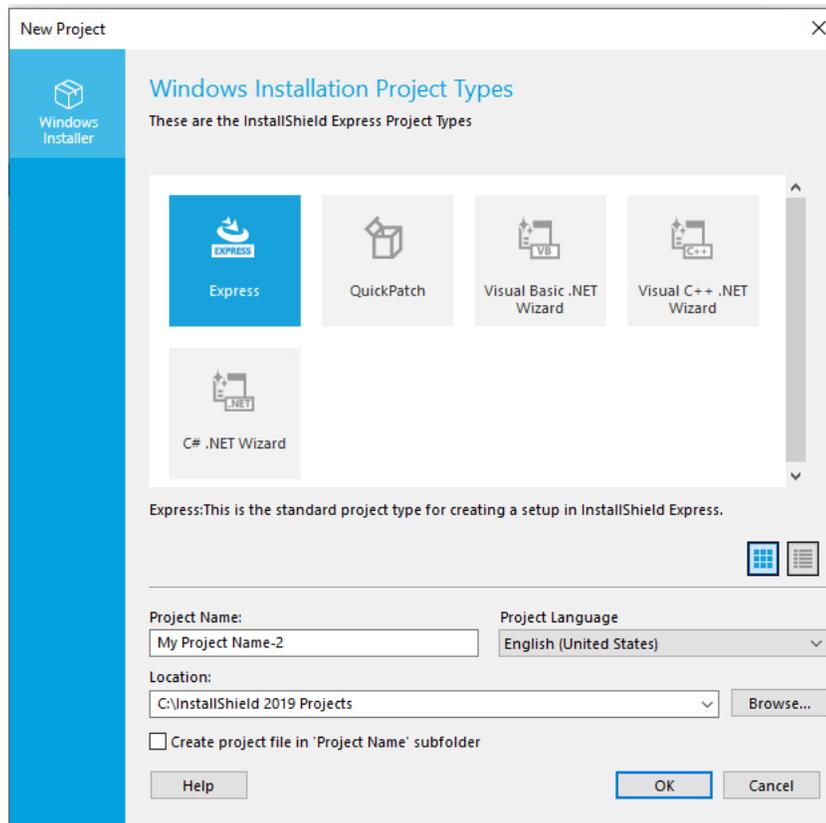
## 新しい機能

InstallShield 2019 Express Edition には、以下のような新しい機能が搭載されています:

- [新しいプロジェクトウィザード](#)

# 新しいプロジェクトウィザード

新しいプロジェクト ウィザードを使って、異なる InstallShield Express プロジェクト タイプを容易に選択できます。



Express、QuickPatch、Visual Basic.NET ウィザード、Visual C++.NET ウィザード、および C#.NET ウィザードなどの異なるプロジェクト タイプを作成できます。

## 強化機能

InstallShield 2019 Express Edition には、次のような新しい強化機能が含リリースされています。

- [InstallShield 2019 R2 Express Edition](#)
- [InstallShield 2019 Express Edition](#)

## InstallShield 2019 R2 Express Edition

InstallShield 2019 R2 Express Edition には、次のような新しい強化機能が含まれています:

- [連続する署名の遅延](#)
- [SQL 2012 Native Client 前提条件のアップデート](#)

## 連続する署名の遅延

InstallShield 2019 R2 Express Editionでは、連続するデジタル署名の間に遅延を設定することができません。この機能は、タイムスタンプサーバーが連続する署名要求の処理に失敗した場合のみ必要になります。

Settings.xml の <DevStudio/Build> ノードの下にある <DelayBetweenSigning default="1500"/> ノードで、ミリ秒単位で指定する必要があります。

InstallShield と共にインストールされている Settings.xml ファイルを検出します。Settings.xml は、使用している InstallShield の言語バージョンに応じて、次のいずれかの場所にインストールされています:

- **英語** — InstallShield Program Files フォルダー¥Support¥0409
- **日本語** — InstallShield Program Files フォルダー¥Support¥0411

## SQL 2012 Native Client 前提条件のアップデート



**プロジェクト**・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します:

- 基本の MSI
- InstallScript
- InstallScript MSI

InstallShield 2019 R2 Express Edition には、最新バージョンの 2012 Native Client 用の Microsoft SQL Server 2012 Native Client 前提条件 (x86 および x64) が含まれています。

## InstallShield 2019 Express Edition

InstallShield 2019 Express Edition には、次のような新しい強化機能が含まれています。

- 選択された証明書の詳細を表示する
- 定義済みインストール条件の追加
- デフォルト サーバーを SHA-2 サーバーに更新
- オペレーティング システム要件として Windows Server 2019 を追加

### 選択された証明書の詳細を表示する

InstallShield 2019 Express Edition では、証明書の全般的な情報や、セキュリティ、証明書パスなどの情報が [証明書の選択] ダイアログ ボックスの [詳細表示] オプションに一覧表示されます。

## 定義済みインストール条件の追加

InstallShield 2019 Express Edition では、新しい定義済みのシステム検索が提供されています:

- Microsoft .NET Framework 4.6.2

インストールで上記が必要な場合、[システム検索] ビューまたはプロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページを使って、このシステム検索をプロジェクトに追加することができます。エンドユーザーがインストールを起動すると、Windows Installer はターゲット システムの要件が満たされているかどうかを確認します。要件が満たされていない場合、インストールでシステム検索用に定義されているエラー メッセージが表示されます。

## デフォルト サーバーを SHA-2 サーバーに更新

InstallShield 2019 Express Edition で:

- SHA-1 を使ってパッケージに署名を行うと、パッケージは次を使ってタイムスタンプを取得します:  
`<DigitalSignature Timestamp="http://timestamp.verisign.com/scripts/timestamp.dll"/>`
- SHA-256 を使ってパッケージに署名を行うと、パッケージは次を使ってタイムスタンプを取得します:  
`<DigitalSignature TimestampRFC3161="http://sha256timestamp.ws.symantec.com/sha256/timestamp"/>`

## オペレーティング システム要件として Windows Server 2019 を追加

InstallShield 2019 Express Edition では、オペレーティング システム要件セクションに Windows Server 2019 のオプションを追加できるようになりました。オプションを選択/選択解除して、プロジェクトに適切なインストール条件を設定することができます。

## 追加された前提条件

InstallShield 2019 Express Edition には、以下のような追加前提条件が含まれています:

- [Microsoft .Net Core 2.1 ランタイム 前提条件](#)

## Microsoft .Net Core 2.1 ランタイム 前提条件

InstallShield の [再配布可能ファイル] ビューには、今回より Microsoft .Net Core 2.1 ランタイム 前提条件が追加されています。



**メモ** • この変更は IOJ-1896156 として記録されています。

# 重要な情報

InstallShield 2019 Express Edition リリースに関する次の重要な情報に注意してください:

- [InstallShield の評価](#)
- [InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する](#)
- [InstallShield の複数エディションをインストールする](#)
- [InstallShield の複数バージョンをインストールする](#)
- [\[リリース\] ビューから \[.NET/J#\] タブの削除](#)

## InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、[「InstallShield評価版の機能制限について」](#)を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンスサーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。

## InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびのライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、フレクセラ・ソフトウェア製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です:

- InstallShield
- 再配布可能ファイル (例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト)
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン (使用可能な場合)
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合)
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック (使用可能な場合)

# InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2019 の Premier、Professional、または Express Edition の中から、同じシステム上に同時に 1 つのエディションのみをインストールできます。また、InstallShield 2019 DIM Editor を、InstallShield 2019 の任意のエディションが搭載されている同じマシン上にインストールすることはできません。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

## InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2019 Express Edition は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2019 Express Edition Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「*Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする*」トピックに記載されている、特殊な登録とアンインストールの考慮について参照してください。

## [リリース] ビューから [.NET/J#] タブの削除

インストール デザイナーの [リリース] ビューにあった [.NET/J#] タブは、もともと .NET 1.1/2.0 and J# 再配布可能ファイルをサポートするために提供されていました。これらの古いテクノロジーは、Microsoft によるサポートも停止されました。これに伴い、InstallShield 2019 Express Edition では [リリース] ビューの [.NET/J#] タブ (並びに関連する [.NET 1.1/2.0 コア言語] と [.NET 1.1/2.0 言語パック] ダイアログ ボックス) が削除されました。

## プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2019 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2019 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2019 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

# InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2019 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2019 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2019 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

## ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

スイート以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイート (アドバンスド UI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクト タイプ) の場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

## 文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	メッセージ	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていない時に発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

# バグ修正

このセクションには、InstallShield の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています:

- [InstallShield 2019 R3 Express Edition](#)
- [InstallShield 2019 R2 Express Edition](#)
- [InstallShield 2019 Express Edition](#)

## InstallShield 2019 R3 Express Edition

InstallShield 2019 R3 Express Edition では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
<b>IOJ-1925598</b>	本リリース以前には、SHA-256 デジタル証明書を使ってインストーラーにデジタル署名を行うと、SHA-256 ダイジェスト アルゴリズムで SHA-1 タイムスタンプを使ってインストーラーのデジタル署名が行われました。この問題は、本リリースで解決されました。

## InstallShield 2019 R2 Express Edition

このセクションには、InstallShield 2019 R2 Express Edition で修正されたカスタマーの問題が掲載されています:

問題番号	問題の概要
<b>IOJ-1893776</b>	InstallShield (InstallShield 2016 以降) の IsCmdBld.exe は、InstallShield のより新しバージョン (InstallShield 2018 以降) で作成されたプロジェクトをビルドするときに、ERRORLEVELを適切なエラーコードに設定しませんでした。この問題は、ERRORLEVEL をエラーを示すゼロ以外の値に設定することで解決されました。
<b>IOJ-1920140</b>	[Windows Installer 4.0 以降のログ記録オプション] ダイアログ ボックス の [MSI ログ記録の作成] オプションで [はい] に設定した値が、再び [Windows Installer 4.0 以降のログ記録オプション] ダイアログ ボックスを開いたときに [カスタム] に変更されました。この問題は、選択された値を保持することで解決されました。

# InstallShield 2019 Express Edition

このセクションには、InstallShield 2019 Express Edition で修正されたカスタマーの問題が掲載されています:

問題番号	問題の概要
IOJ-1900586	InstallShield によって生成された実行可能ファイルのバイナリ スキャンを実行中、すべての基本の MSI プロジェクトは Zlib 1.2.3 バージョンの脆弱性をレポートしました。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-1907614	以前、Windows Server 2016 上に .NET Framework 4.6.2 が既にインストールされているのにも関わらず、インストーラーがこれをインストールしました。この問題は、Windows Server 2016 上に .NET Framework 4.6.2 をインストールしないように防ぐ、前提条件のインストール条件を追加することで解決されます。
IOJ-1895875	以前、再配布可能ファイル ダウンローダー一覧に、古い情報が含まれていました。この問題は、再配布可能ファイル ダウンローダー一覧を最新版の再配布可能ファイルに更新することで解決されます。
IOJ-1911911	[再配布可能ファイル] ビューの [詳細] ページで、最初に表示される前提条件だけが更新され、後に続く前提条件は更新されませんでした。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-1907284	以前、InstallShield が依存ファイルを含むマージ モジュールを参照後にクラッシュしました。この問題は、本リリースで解決されました。

## システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

- [InstallShield を実行するシステムの要件](#)
- [ターゲット システムの要件](#)

## InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	256 MB の RAM (512 MB 推奨)

項目	説明
ハードディスク	750 MB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows Vista</li> <li>• Windows Server 2008</li> <li>• Windows 7</li> <li>• Windows Server 2008 R2</li> <li>• Windows 8</li> <li>• Windows Server 2012</li> <li>• Windows 8.1</li> <li>• Windows Server 2012 R2</li> <li>• Windows 10</li> <li>• Windows Server 2016</li> <li>• Windows Server 2019</li> </ul>
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス
<b>InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)</b>	<p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Visual Studio 2008</li> <li>• Visual Studio 2010</li> <li>• Visual Studio 2012</li> <li>• Visual Studio 2013</li> <li>• Visual Studio 2015</li> <li>• Visual Studio 2017</li> <li>• Visual Studio 2019</li> </ul> <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Professional</li> <li>• Premium</li> <li>• Ultimate</li> </ul>

# ターゲット システムの要件

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最小要件を満たさなくてはなりません:

- Windows XP SP3
- Windows Server 2003 SP2
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

## 既知の問題

InstallShield 2019 Express Edition における既知の問題は次の通りです:

エラーメッセージ	説明
<b>VC++ 2015 を 2017 にアップグレードすると、'14.0' キーが削除される</b>	このエラーは、VC++ 2015 が搭載されているマシン上に VC++ 2017 をインストールすると発生し、一般的にインストールの検出に使用されるレジストリキーが削除されました。

# 法的情報

## 著作権情報

Copyright © 2019 Flexera

この出版物には、Flexera およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本技術およびそれに関する情報のすべての複製は、Flexera より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

## 知的財産

Flexera が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.flexerasoftware.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。Flexera 製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

## (米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。